

## 修了式(6月レポート)

山本 裕之

6月末をもって1年間の語学留学が修了しました。まずは、大きな病気や事故もなく無事に過ごせたことに安堵の気持ちです。とはいえ、遠足は家に帰るまでが遠足。日本に帰国するまではまだ気が抜けません。

6月17日(月)卒業式(学部留学生の卒業式兼、語学留学生の修了式)。

壇上で「荣誉证书」をいただきました。2023-2024の学習期間に無遅刻、病欠、早退、サボリ(旷课)がない生徒に送られる賞です。埼玉県からの留学生は二人とも「荣誉证书」が授与されました。実は私は、中国の日曜が振替出勤日になる場合がある事を知らず一日欠席しているのですが、まあそこはスルーしていただいたということで、ありがたく賞をいただきます。61歳で卒業式(修了式)というのも気恥ずかしいですが、何かを達成したという達成感、一緒に学んだクラスメートと別れる寂しさ、何歳になっても卒業式というのは良いものです。

6月20日(木)、21日(金)期末テスト

卒業式の後には期末テストというのも不思議ですが、中級クラスの3教科(閲読、口語、総合)のテストと、追加聴講していたHSK5級、HSK6級クラスの模擬試験に参加しました。筆記試験に関しては、日本語の漢字の知識がベースにあり有利なのですが、HSK5級、6級のリスニングに関してはまだまだです。多分このリスニングのレベルが今の自分の中国語レベルなのだろうと思います。それでも、留学前に日本で受けたHSK5級のリスニングより確実に聞けるようになっていたし、読解も最後の問題まで時間内に回答でき、作文も自由に発想して書くことができましたので、この一年の留学は無駄ではなかった、中国語はだいぶ上達したと感じます。

謝恩会

21日最後の期末テストの後にベトナムの子たちが中心になって謝恩会を開いてくれました。3教科の先生に感謝の気持ちを伝える素晴らしい会でした。青春映画やドラマのワンシーンに自分が入っているような場面もあり、企画してくれた同級生に感謝です。

まさに、現地に留学しないと学べない事。それは、中国語の学習もそうですが、いろいろな国から集まった学生たちを見たり、片言でも話したりすることで得る国際感覚だと思います。

余談ですが、いろいろな事を先回りして気にする日本に慣れすぎている自分としては、あれ、謝恩会はどこでいつ始めるの、会の進行の事前打ち合わせはないの、教室で食べ物を食べていいのかなど、気になることが満載で、自分が企画側でもないのにやきもきする感じでしたが、終わってみると心のこもった素晴らしい会でした。

日本は段取りが重要で本当に大切な心が希薄になっているのではないかな。コンプライアンスという殻をまとわされて人間味を見失ってしまっているのではないかなど、他の学生を見ていて日本だったらといろいろ考えさせられることも多いです。留学、またはワーキングホリデーでもいいかもしれませんが、別の国の人と生活する事は重要なことだと感じます。

大学の在籍期間、そして中国在留許可は7月31日までです。もう少し中国を見て、体験して日本に帰国したいと思います。

以上

(写真)

#### 1. 卒業式

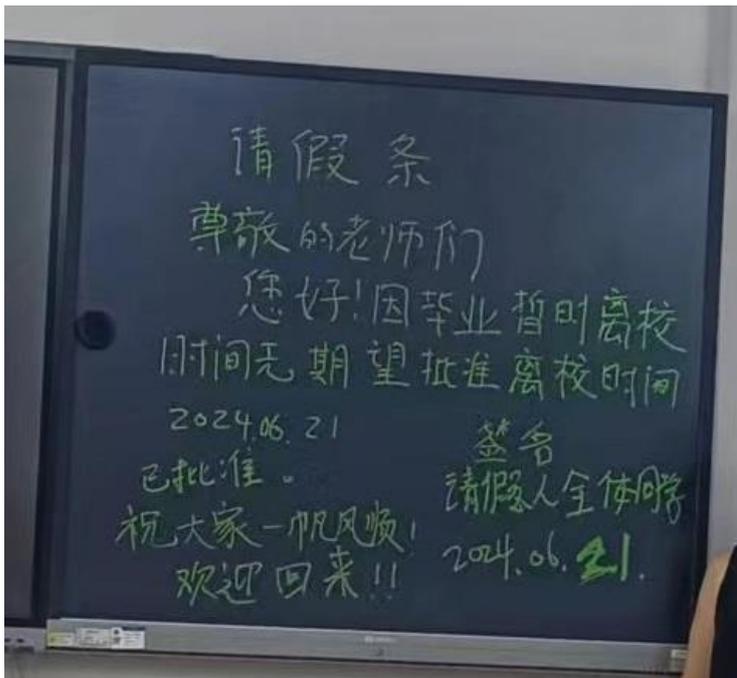
「荣誉证书」をいただきました。



## 2. 謝恩会風景



## 3. 謝恩会「休暇届け」



尊敬する先生方へ

「卒業のためしばらく学校を離れます。期日はありません。学校を離れることを承認ください。 クラス全員 2024.6.21」

先生方がこれに追記:

「承認しました。」「皆さんの門出を祝います。」「また来る事を歓迎します。」

ドラマのような展開に感動!